

令和８年度第１回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

【開催概要】

開催日時：令和８年４月21日（火）午前10時から午前11時23分まで

開催場所：リサイクルプラザ２階 大会議室

【次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付及び委員紹介
- 3 環境部長あいさつ
- 4 事務局自己紹介
- 5 正副会長選出
- 6 正副会長あいさつ
- 7 議 事
 - (1) 長野市一般廃棄物処理基本計画の策定について
- 8 その他
- 9 閉 会

【配布資料】

- ・資料１ 長野市廃棄物減量等推進審議会について
- ・資料２ 長野市廃棄物減量等推進審議会名簿
- ・資料３ 長野市一般廃棄物処理基本計画の策定について（概要版）
- ・資料４ 長野市一般廃棄物処理基本計画書（素々案）
- ・家庭用資源物とごみの出し方保存版（2026.3月改訂）
- ・令和８年度サンデーリサイクルと小型家電回収のご案内
- ・えこねこ通信（第18号）
- ・事務局職員名簿

【出席委員】 12名

【欠席委員】 1名

【事務局】 14名

【報道・傍聴者】 2名

【会議内容(要旨)】

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付及び委員紹介
- 3 環境部長あいさつ
- 4 事務局自己紹介
- 5 正副会長選出
- 6 議事

(1) 長野市一般廃棄物処理計画の策定について

資料3「長野市一般廃棄物処理基本計画の策定について(概要版)」、資料4「長野市一般廃棄物処理基本計画」により説明(事務局)

(会長)

事務局より説明があった。ご質問ご意見等があったらお出しいただきたい。

(委員)

長野市一般廃棄物処理基本計画については年度内を目途に策定していくとのことだが、来年度の審議内容についてお聞きしたい。

(事務局)

来年度はごみ処理手数料の見直しについてご審議いただきたいと思っている。

(委員)

人口は減少していて核家族化により世帯が増えているという状況で、単身高齢者の世帯も多くなっている。集積所以外の回収方法について検討されているのかお伺いしたい。

(事務局)

収集方法については、集積所に皆さんから出していただいてそれを収集するというスキームで行っている。これは収集作業の効率や日数を考慮して可燃であれば多くの地域で週2回収集をしている。これを集積所からではなく、都市圏で実施しているような各家庭前から収集するいわゆる戸別収集に変えるとすると、現状の日数等の条件で行うとなると、決められた時間内に収集が完了しないとか大きな収集車が入っていけない場所もあるため、そういった場所の収集が出来ないといった状況により、集積所からの収集をお願いをしているところである。

(会長)

非常に重要な質問をいただいたと思う。その他いかがか。

(委員)

概要版14ページに市民アンケートの調査結果があるが、対象の年代や世帯数など(全体)の数字について教えていただきたい。

(事務局)

この調査については企画課で実施しており、アンケートの対象は5,000名程度を無作為に抽出している。詳しい調査結果等については後日資料として提出させていただく。

(委員)

資料 59 ページに掲載されている具体的な写真により、フードロス削減のイメージが以前よりも格段に分かりやすくなったと感じた。フードロスやプラスチックに関する意識に年代別の特徴が見受けられた。プラスチックに関する意識については、10 歳代と 20 歳代の間で大きな変化は見られない。しかし、若い世代(10～20 歳代)の意識が非常に高い一方で、中高年世代の意識が比較的低い傾向にあることがうかがえた。これらの状況を踏まえると、小学校の工場見学などを通じた環境教育の重要であり継続すべきであると考え。年齢を重ねてから急に分別が細くなるような制度変更があった場合、対応が難しい高齢者も出てくる可能性があるため、幼少期からの教育に加え、高校生世代など、もう少し上の世代にも講習会等の実施を強化し、一定の年間実施回数等の数値目標を設けて、総合計画など関連する計画に盛り込むことも考えても良いと思う。PTA など、子どもの教育に熱心な団体との連携も有効であり、このような連携を通じて教育活動を実施し、その結果として子どもたちの意識がどのように変化したかを把握できる仕組みがあれば良いと考える。

(事務局)

貴重なご意見として承る。確かに若年層からの意識啓発というのは非常に重要だとは思う。それがゆくゆく年をとっていったときに、どういうふうに変化しているか長い間で見えていくのも必要だと思うので、貴重なご意見としてお受けし、何かしら計画の方で反映できるようなものであれば、担当の方で作り込みをしていきたい。

(会長)

たまにここの施設でもイベントを開いていて、ごみ収集車が外に展示されたり、イベントでトイレトペーパーがもらえたりとか、そういうので結構親子で来たりするが、そのイベントが少しずつ積み重なって、18 歳、19 歳の子の 58%ぐらいが当てはまる。とても素晴らしいことだと思う。

(委員)

今の件に関連して、コロナ過の前は市でも「えこねこ」のぬいぐるみを着て幼稚園等で分別啓発やパッカー車の派遣などをしていた。環境フェアでも小学校にチラシを配布するなどを行っているので、ほんとに子供の時の教育が非常に大事だと思うのでその辺に力を入れていったらよりよい環境になると思う。

(会長)

4 月に大学にも市の方に来ていただき、(学生に)ごみ分別の説明をしていただいている。本当に労力をそういったところにつぎ込んで良い方向に進めようとしていると感じる。

(委員)

親が亡くなって親の家を整理したりする時に大量に出るごみについては処理施設に自ら持ち込むのか、それとも集積所にその可燃ごみの袋とかプラとかに全部仕分けをしてその都度出していくのか、その判断基準についてどうなっているのか。持ち込みならば何でもよいとなんとなく聞いたことがあり、でも集積所に出す場合はしっかり分別をして出さなきゃいけない。その点はどうなのか。

(事務局)

基本的に一時的に多く出るごみ、引っ越し等を含めてボーダーラインがどこかというのはなかなか難しいところかと思う。基本的に集積場のスペースというのはやはり限られている。また不燃ごみであれば4週に1回しか収集していない。そういった時に一時的な多量のごみを集積所に出すというのはなかなかスペースの関係もあって難しということで、一時的に出るもの、引っ越し等によって出るものについては、施設の方に直接を持ち込むということをお願いしている。持ち込んでいただく際には、当然ながら集積所に出すときの分別と同じ方法で持ち込んでいただくということになっている。ただし、指定袋については、持ち込んでいただく際には処理手数料を払っていただくので不要で中身が確認できる透明な袋等でお持ち込みいただくようお願いをしているので何でもよいということではない。

(委員)

透明な袋ごとにプラや可燃と中身が分かるような状態で持ち込む形ということではよろしいか。

(事務局)

施設の方でも、家電の処理や不燃、資源物を受け取る施設とそれぞれ別になっているので、それぞれの施設でそれぞれ降ろしていただくので、分別して持ち込みをお願いしている。

(委員)

ごみの分別基準について、紙とか資源ごみは結構いい状態で今進んでいると思うが、問題は可燃だと思う。可燃も40%ぐらいが生ごみである。その生ごみも水切ただけでも減量になるし、堆肥化すればそれはもうゼロになる。そういった部分について長期的に見て改善等検討してもいいと思うがその辺のお考えをお聞かせ願いたい。私も以前、長野市の食育審議会の方に出ていて、そちらでも減量、減量と何度も話が出てくるが、それに対してそれぞれ対応してはいるが中途半端。例えば生ごみと紙と一緒にすると紙が(水分を)吸うので、割とグラム数は減らないが、生ごみを分別すればそれだけ水を切りやすくなる。それから、生ごみと他のごみを分別すれば、紙だけだと別にあんな高いパッカー車で集めなくてもよい。簡単に言うと、(可燃物に対する生ごみの割合が)40%あるので、生ごみを集めるパッカー車は半分で済む。あと半分は別に毎週集めなくてもいいという考え方もある。そういう考え方をすると、収集コストも相当縮む。そのような総合的な改善についてお考えがあるかお聞かせ願いたい。

(事務局)

本計画において具体的な事例について取り上げるかについては決まっていない。今回は現状について話をさせていただいた。今後ごみの排出についてどういう推移をしていくかという予測を含めた中でどういった対応をするかということをお諮りしていきたいと考えている。委員ご指摘のように生ごみの重量は非常に大きなウェイトを占めているのは事実であり、市でも生ごみ処理機や堆肥化にするためのコンポストの購入補助を実施しているが、すべての市民に届いているかというとなかなかそういうわけにはいかないというのが現状である。今後どのように考えていく

かということも含め、次回以降でご相談させていただきたい。

（委員）

長期的に市としてどう取り組むか、もっと分かりやすく言うとモデル地区を作って実験として生ゴミを分別収集する。山間地でいいと思うが、市街地だとなかなか田畑に入れるのはできないと思うので、逆にそういう半農地区というか、そういう地区の方が実験しやすいと思う。行政で集めて行政で堆肥化していくとか、そういう生ごみの処理の仕方を見直す作業を始めて、決めてもいいかと思う。現在策定している計画では難しいと思うので、その次の計画にはきちんと入るような段取りで考えていくのはいかがか。

（事務局）

今回の計画ではなく、そのプロトタイプとしていかがかというお話ですので、具体的にはこれからのお話になるかと思う。確かにおっしゃる通り、中山間地で実施するとなれば、野生の鳥獣害の被害等も拡大するということにもなるので、私どもの範囲を超える部分も出てくる。それらの調整を今後どうやっていくかということも必要になるので、モデル地区として設定するにはどうすればいいかという、協議、検討が必要となるので、いずれにしても、今回の計画に入れ込むのは難しいので、貴重なご意見として賜って、どのようにご意見が反映できるか検討を含めて進めていきたい。

（委員）

11 ページに全国の食品ロスの事業系と家庭系の排出量というのが示されていて、事業系と家庭系は大体半分半分ということになっている。12 ページを見ると、長野市の食品ロスのところで家庭系の食品ロス数が全国 51g で、長野市で 20g の少ない数値になっていて、この家庭系食品ロスについては、かなり削減が進んでると見受けられるが、これをさらに下げることになるとさらに絞るようになるのでなかなか難しいと思う。一方で事業系はこの資料には出てこないが、実態を把握して削減できるかどうかを検討すると、より効率的にこの食品ロスの削減というのが実現できるのかなと思うが、この事業系食品ロスは国の方は実態把握されているが長野市の方では実態把握されているのか。

（事務局）

事業系の食品ロス量については細かな数字は把握していない。事業系可燃物として一括りで数字を出している。内訳の出し方については今後検討を進め、家庭系食品ロスと事業系食品ロスを併せて検討していくことで、減量に向けよりどういった施策を推進していくかを考えることにつながるかと思うので今後検討させていただく。

（委員）

幅広い政策に繋がるため、国のやり方と同じ方法で構わないので、ぜひ整理を進めてほしい。続いて資料 10 ページのごみ処理コストについて、ごみ量が減少しているにもかかわらずコストが上昇している理由についてガソリン価格の上昇が影響しているのか。

（事務局）

ガソリン価格や人件費、車両価格を含めて上昇していることが影響している。

(委員)

先ほど話にも出たが、収集の効率化についても検討されたいかがかと思う。

(事務局)

本日の議事録は、事務局でまとめたものをお送りし、承認後に公開したい。簡単な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。

10 閉会（午後 3 時 25 分）